

# 平成 28 年度 事業計画書

日本河川・流域再生ネットワーク

自 平成 28 年 4 月 1 日

至 平成 29 年 3 月 31 日

会員及び海外連携機関との協働を基本に、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じて、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に貢献し、国内外のネットワークの拡大を図ります。

平成 28 年度は、河川再生に関わる情報共有基盤の更なる強化、河川再生の普及・啓発に向けた行事開催や調査研究、また国内外関係団体との協働活動に取り組み、全国の川づくりの担い手が繋がり、新たな創発を生み出す川づくりのプラットフォームの役割を担ってまいります。

## 【1】 河川再生に関わる情報共有基盤整備

河川再生のポータルサイトとして、全国の川づくりに役立つ有益な情報を、会員及び海外連携機関の協力を得ながら集約し、それらをホームページやソーシャルメディア（随時更新）、ニューズメール（毎週配信）、ニュースレター（毎月発行）等を通じて広く社会一般に発信し情報循環を図ります。また、平成 28 年度は、昨年度に制作した「水辺の小さな自然再生ホームページ」を活用し、全国の水辺でできる小さな自然再生の事例の集約と情報循環にも取り組みます。

また、アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) の一員として、ARRN ホームページの運営・管理を担い、ARRN 活動成果やアジアにおける河川再生関連情報の普及に努めます。



JRRN web  
随時更新



JRRN facebook  
随時更新



JRRN newsletter  
毎月発行



JRRN news mail  
毎週発行



ARRN web  
不定期更新

※JRRN ホームページからすべてにアクセスが可能：<http://www.a-rr.net/jp/>

JRRN が運営・管理する主な情報媒体

## 【2】河川再生の普及・啓発に向けた行事等の実施

河川再生の普及・啓発、情報交換や交流、技術向上を目的とした行事を企画開催します。

### (1) 「桜のある水辺風景 2016」 写真公募と写真集制作・普及

水辺が創出する美しい景観の未来への継承を目的として、平成 28 年に撮影された「桜のある水辺写真」を一般より募集し、ソーシャルメディアで紹介するとともに、写真集としてとりまとめ普及します。



作品集と応募チラシ

### (2) 講演会や研修会等の開催 《河川基金助成事業》

河川再生の普及・啓発、国内外の河川再生に関わる最新情報や知見の共有、また技術向上を目的とした講演会や研修会等を開催します。

平成 28 年度は、多様な主体が協働し日曜大工的に自然環境の保全・再生に取り組む「小さな自然再生」の人材育成と全国活性化を主目的に、河川管理者と連携した現地研修会をシリーズ開催します。また、その成果を講演録や報告書などでホームページに公表し普及します。

## 【3】河川再生に関わる調査研究 《河川基金助成事業》

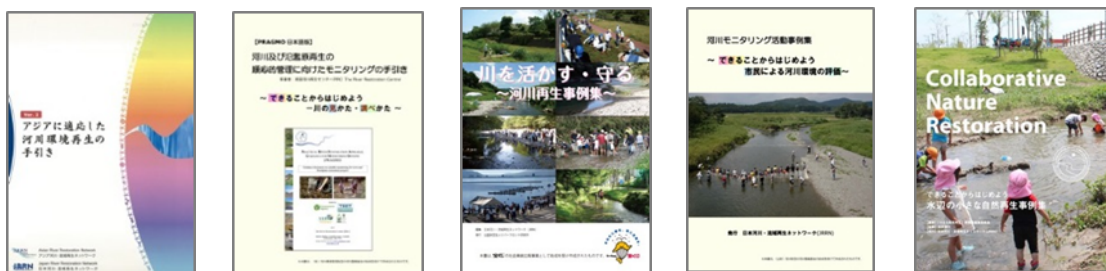
水辺でできる小さな自然再生の普及促進と人材育成に関わる調査研究として、行政職員・民間技術者・研究者・学生・市民等がフラットな関係で気軽に参加できるネットワークのあり方や、小さな自然再生の担い手の人材育成と活動の活性化を図る仕組みについて研究します。

## 【4】河川再生に関する冊子等の発行

河川再生の普及・啓発を目的に実施した行事等の成果、及び調査研究の成果を冊子として取りまとめ、全国への普及に努めます。



講演会・技術交流会・シンポジウム等の講演録や報告書（過去の主な成果）



調査研究成果の発行情物（過去の主な成果）

## 【5】河川再生の推進に向けた国内外団体の支援や協働

JRRN 会員や ARRN 会員を含む川づくりに関わる国内外の諸団体が取り組む公益的な活動に対し、企画や行事の運営・開催、広報等に協力しながら、河川再生の更なる推進に寄与する新たな価値を協働活動を通じて生み出していきます。

### 今年度予定している主な国内協働活動

団体名	支援・協働内容
全国の市民団体等（JRRN 団体会員）	行事や諸活動の企画、運営、広報等
水の巡回展ネットワーク(jawanet)	巡回展の企画運営協力
応用生態工学会	委員会との協働
東彼杵清流会、長崎県東彼杵町、筑波大学白川（直）研究室『川と人』ゼミ	「水辺からのまちおこし」プロジェクト、「彼杵おもしろ河川団」企画・協働
堀川再生の会・五平太、北九州市立大学地域戦略研究所、筑波大学白川（直）研究室『川と人』ゼミ	「遠賀堀川の未来を考える輪い和い話い夢会議」後援・協働

### 今年度予定している主な海外協働活動

団体名	支援・協働内容
アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)	「11 <sup>th</sup> ARRN 運営会議」企画運営協力 「13 <sup>th</sup> 水辺・流域再生国際フォーラム」運営協力
国際河川財団(IRF)	国際河川賞への日本応募支援
海外政府視察団	国内視察受入先との技術交流支援等 (5月・香港政府視察団支援)

**平成 28 年度 収入・支出予算書**  
(平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日)

(収入)

項目	本年度 予算額	前年度 予算額	比較増減	備考
①助成金	1,000,000	900,000	100,000	河川基金助成事業
②寄付金	0	0	0	
③預金利息	30	30	0	
計	1,000,030	900,030	100,000	

(支出)

項目	本年度 予算額	前年度 予算額	比較増減	備考
①旅費・交通費	780,000	418,000	362,000	研修会出張費
②通信・運搬費	15,000	12,000	3,000	研修会資料送付
③資料・印刷費	115,000	50,000	65,000	研修会資料印刷
④賃貸料	0	20,000	△ 20,000	会議室使用料
⑤委託費	60,000	276,000	△ 216,000	研修会速記料
⑥諸謝金	0	120,000	△ 120,000	研修会謝金
⑦消耗品費	30,000	4,000	26,000	封筒代、研修会文具等
計	1,000,000	900,000	100,000	

※上記は助成金のみを計上。

その他の事業に要する諸費用は、日本河川・流域再生ネットワークの事務局を共同運営する「公益財団法人リバーフロント研究所」及び「株式会社建設技術研究所国土文化研究所」の共同研究「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」より支出する。